

授業作り	重点	習熟度別指導・ティーム・ティーチング・視覚的な教材提示などの指導体制や方法の工夫及びICT環境・タブレット端末の効果的な活用で分かる授業を展開すること、言葉による理解をさらに深めるために具体物操作や体験的活動を授業に積極的に取り入れることで、確かな学力を育成する。
環境作り		語彙力を豊かにし、主体的な学習力を高めるために、一人一冊の辞書・学習内容に関する書籍を身近に置き、手に取れるようにする。自学する力の伸長を目指して、朝の学習時間、家庭学習、タブレット端末等の活用を共通実践していく。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、かたかな、漢字を正しく習得し、書くことで正しく使えるように指導することが必要である。 具体物からたし算やひき算の計算ができるよう指導することが必要である。 体験したことを話したり、書いたりすることができる力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①字の形、筆順の丁寧な指導。定着はテストで確認。 ②ブロックや具体物の活用。 ③生活科での体験活動の充実。表現方法の提示。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字及び新出漢字の定着をより一層図る必要がある。 2位数までの加法・減法の計算を、数の構成を意識しながら正確に行えるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ノートの状況の確認及び指導。 ②定期的に漢字小テストを実施。 ③ブロックなど具体物を活用し、10になる補数関係について徹底して繰り返し指導。 ④計算プリントやワーク、計算カードやデジタルドリルなどの活用。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査において国語では基礎学力は身に付いており、全国平均を上回っている児童が多い。「聞く力や国語の活用の力」の向上が必要である。 算数は「たし算、ひき算、立式」については平均を上回っている。「算数の活用や水のかさ」の学習においては苦手としている児童が多いため、それらの分野の指導を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」ときは、相手に伝わるように話の中心を明確にさせる必要がある。「聞く」ときは、必要なことを記録したり質問したりしながら話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつよう指導することが必要である。 読書量を増やし、分からない語彙は辞書で引き活字に慣れる必要がある。 量の単位と測定に関わる算数的活動、体験活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①発表機会を多く設定。全員にその機会をもたせるような工夫。 ②発表時や聞くときのきまりの徹底。 ③教室内の本の整備。読書記録の活用。 ④日記など、書く作業の課題設定。 ⑤測定器具などの具体物の活用。 ⑥四則計算課題を繰り返し設定。

<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、国語は区の平均値を下回り、算数は区の平均値近い点数を取ることができている。国語では「読むこと」においては比較的 understanding ができている。「書くこと」「話すこと・聞くこと」「言語」の力の向上が必要である。 ・算数では「平面図形」においてはよく理解ができている。「長さ」においては課題が残るため、重点的な指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味について理解し、より多くの語彙を獲得する必要がある。 ・自分の考えを話す、相手の話を聞く活動を積極的に取り入れる必要がある。 ・数量感覚を養えるよう、具体物や体験活動を取り入れた学習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語辞典と漢字辞典の常時携帯と活用。 ②発表をするときや話を聞く際のきまりを確認、教室内に掲示。 ③具体物の活用や体験活動の機会の積極的な設定。 ⑤計算プリントやデジタルドリルなどの活用。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査において、算数は基礎・応用とも全国平均を上回っている。特に、数や整数・小数の計算単元では、平均を大きく上回っている。角や重さなど測定領域では、平均を下回っているため、習得、及び定着を図っていくことが必要である。 ・国語も基礎学力は身に付いているが「書くこと」や「応用」など、特定の分野に関する指導を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数における学習では、数量や重さなどの実感をもつことができるように、体験活動を通じた学習を充実させることが必要である。 ・「書くこと」の充実のために、より多くの語彙を獲得する必要がある。 ・作文を自分で推敲できるようになるために、正しい表記や言葉のつながりを理解する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①測定等体験活動の機会を積極的に設定。 ②読書本や辞典等の環境整備による、日常的な活用の促進。 ③自分の考えや意見を文章化する機会を積極的に設定。 ④デジタルドリルの活用。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査から、全体的に区の平均値を大きく下回っており、国語、算数いずれにおいても特に「思考・判断・表現」の観点に課題が大きいことがわかる。 ・領域別では、国語では「書くこと」「読むこと」、算数では「データの活用」「図形」に課題がある。これらの結果を踏まえると、自ら考える力を養うこと、考えたことを自分の言葉で表現することを重点的に指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの課題に対して粘り強く考え、自分の意見や考えをもつことができるよう指導する必要がある。 ・自分の考えたことや意見を書いたり話したりして表現することができるよう指導する必要がある。 ・語彙力を増やし、自分の表現したいことに合致する言葉を選択できる力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題に対して、個人→グループ→全体のそれぞれにおける考える時間の十分な確保。考えをもつためのヒントや参考資料などを提示、自力で考えをもつ経験の蓄積。 ②定型文やモデル文を提示するとともに、工夫できる点も示して表現の幅を広げる活動。全員の発言の機会の意図的な設定。 ③新出の単語について都度確認するとともに、国語辞典やタブレット端末で調べることの日常化。自学自習ノートを用いて、日常的にさまざまな単語や表現を用いた文章を書く機会の設定。
<p>特 別 支 援</p>			